



はもれび通信



10月の活動の様子

児童発達支援

役割交代を学ぶことや、順番待ちの練習をするを目的として行っています！



🏠 お店屋さんごっこ

お店や商品、ネーム、看板など開店するために必要なものを作りました。売るものやお店の名前を決め、自分だけのお店が完成しました♪

お店が完成したらいよいよ開店です。今回は、お客さん役だけでなく、店員さん役にも挑戦し、「いらっしゃいませ！」や「ありがとうございました！」を言うことを目標に取り組みました！言い慣れない様子や恥ずかしそうな様子の子もいましたが、上手に店員さんをする事が出来ていました！お客さん役のときには、「これください！」と言って、お金と商品を交換することを頑張っています！お店屋さんごっこでは、相手とのやりとりを重視して取り組んでいます。お友達とのやりとりが苦手な子も、活動の中で言葉にして伝える練習をすることで、普段の生活にも少しずつ活かすことができたらと思います。



ぼくたちはハンバーガー屋さんになったよ！



🎈 ボールはこび

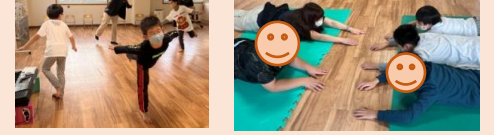
手だけでなくコップやお鍋、おたまなど様々な道具を使ってボールはこびをしました。年長さんや2回目のお友達は、平均台や積み木の上を歩いてバランスを取りながらボールを運ぶ、少し難易度の上がったコースにも挑戦しました。手やコップは安定感がありますが、お鍋やおたまはボールが落ちやすくなるため、手元を動かさないように慎重に進むことが必要です！また、ボールを落とさずにスムーズに進むためには、足元や進む方向にも意識を向けることが大切です♪みんなでボールを集めた後は、楽しくボールプールで遊びました。ボールをスタッフと掛け合ったり、ふわふわのボールを集めたりなど、それぞれの遊び方でみんな楽しんでいました◎



ゆっくり運ぶよ！

放課後等デイサービス

10月の音楽リズムでは、「とんぼ」や「こうま」などの音楽に合わせて沢山身体を動かしました。片足立ちや高這い、ギャロップなどを頑張りました！



🏠 お店屋さんごっこ

中学生のお友達は、レベルアップしたお店屋さんごっこを行い、みんなで一つのハンバーガー屋さんを開店しました。設定活動では開店準備として、各自の役割に応じて、看板やメニュー、名札を手書きしたり、折り紙や花紙を使ってポテト、ナゲット、ジュースを作りました。

ハンバーガー屋さんでは、スタッフがお客さんになり、子どもたちが店員さんになりました。レジ係は計算、注文係は大きな声で注文を伝えること、ジュース係、ポテト係、ハンバーガー係は丁寧に作るなど、それぞれの役割ごとに頑張るポイントがあり、一生懸命取り組むことが出来ていました！曜日ごとに合言葉を決め、注文が入るとみんなで大きな声で言うことで、一体感が生まれていました◎



🧺 雑巾がけレース

9月本すがた医院のリハビリスタッフ(理学療法士)が企画した活動を行いました。直線やUターン、ジグザグなど様々なコースで雑巾がけの練習をし、最後はレースを行いました。チーム戦ということもあり、「がんばれー！」と応援したり、名前を呼びながら交代したりなど、とても盛り上がりました！雑巾がけで前に進むためには手や足で床をしっかりと押すことが必要です。はじめは苦戦している子もいましたが、コツを伝えると回数を重ねるごとにどんどん上達していました！ジグザグの角を曲がる時や、直線で勢い余って転ぶこともありましたが、みんな最後まで一生懸命取り組むことが出来ていました！また、塗れた雑巾を使う前には、雑巾を濡らして絞ることも頑張っています。



9月の企画では、雑巾がけの他に新聞じゃんけんや、一人一人の重心位置測定を行いました。重心位置測定では、普段、体のどこに重心が置かれているか知ることができます。活動の前後で重心位置が変化しており、活動を通して体の使い方が変わっていることがわかりました！

中学生・高学年は、職業について調べ、将来像についてまとめているので、次号お知らせします。

保育所等訪問支援事業

■10月は小樽市内、岩内町、泊村へお邪魔させて頂きました。日に日に寒くなっていましたが、鬼ごっこや虫取りなどをしてまだまだ元気に外で遊ぶ姿や学習発表会へ向けて練習を頑張る様子などをたくさん見る事ができました。また、新たに訪問させて頂くことになった学校や園なども増え、支援者の方との繋がりも広がる事が出来ました。長い2学期後半を迎えますが、お子様達が安心・安全に過ごせる助けとなれるよう支援を継続してまいります。そして、たくさんの頑張りをまたお伝えしていきたいと思っております。今後よろしくお願い致します。

はもれびコラム～作業療法～

■一般的に「五感」は、人の感覚の中で意識されやすい感覚です。他にも無意識下での感覚として前庭感覚(自分の体の傾きや動く速さを感じとる感覚)や固有感覚(自分の体の動き方や力の入り方の情報を感じとる感覚)と呼ばれるものがあります。これらの感覚が上手く統合・処理されていないと落ち着きがない、運動が不器用、お友達と遊ぶことが苦手などの特徴が表れることがあります。感覚面の発達にはブランコなどの遊具、シーツ/タオル遊び、積み木やブロックといった様々な遊びによって促されます。これを感覚統合といい、作業療法ではお子さんの特性に応じた遊びを行うことで出来ることが増えていけるような関わりを行っています。

